

第11回 第5分科会会議録（概要）		場 所	新宿区役所 第二分庁舎 2階2-①会議室
日 時	平成17年11月25日 午後7時00分～午後9時15分	記録者	【学生補助員】 竹前、渡辺
		責任者	区事務局（松浦・池田）
会議出席者：20名 傍聴者：2名 （区民委員：14名 学識委員：1名 区職員：5名）			
<p>■配布資料</p> <p>①第10回会議録</p> <p>②ワークシート（11月25日）</p> <p>③平成17年度新宿区区民意識調査（速報版）</p> <p>④第6回「新宿まちづくり学」講座のお知らせ</p> <p>■進行内容</p> <p>1 はじめに</p> <p>2 橋本先生より説明</p> <p>3 グループワーク</p> <p>4 発表・意見交換</p> <p>5 まとめ</p> <p>6 事務連絡</p> <p>■会議内容</p> <p>【発言者】●：区民委員、◎：学識委員、○：区職員</p> <p>1 はじめに</p> <p>○： 配付資料の確認（4点） 本日の分科会の進め方について はじめに橋本先生から本日の作業の進め方についてお話いただきます。その後、グループワークを行います。皆様には事前にお知らせしましたが、前々回の会議で説明させていただいた「歩きたくなるまち新宿」を素材にして、討議していただきます。その後、各班より発表していただき、質疑、意見交換を行います。最後に、先生からまとめをお願いします。</p> <p>配付資料の中の、新宿区区民意識調査は新宿区で毎年行っている調査の17年度の速報版になります。こちらにつきましては、新宿区の区政運営の基本となる重要な課題に対する区民の意向、要望及び区民の生活意識等を把握し、今後の区政</p>			

運営に反映させるための参考資料です。新宿区全域で満20歳以上から満80歳未満の男女、無作為抽出により2500人の方について、郵送で調査を行いました。定住性や区政への関心などの経年調査項目の他に、今年の特集項目は皆さんに現在、検討していただいている基本構想・基本計画についてや第5分科会に関連する新宿の歴史・文化、観光・産業などについても調査を行っております。区民の方がどういうイメージを持っているのか参考にさせていただければと思います。例えば、基本構想・基本計画のページを見ていただければ、基本構想・基本計画はあまり知られていないという印象があります。全く知らなかったという方が6割以上を占めている実情があります。区民の皆さんに知っていただくにはどうしたらよいかなどもこれからの課題だと思います。

では、橋本先生より、本日の作業に関連したお話をさせていただきます。

2 橋本先生より説明

◎： 早速なのですがけれども「歩きたくなるまち新宿」ということで2ページ目にこんな新宿にしたいという3つのコンセプト、そして、4つの仕組み、5つの取組みが書かれたところがあります。これをどういうふうに具体的な素案として第5分科会がたどっていくかという段階にそろそろ入ってくるタイミングなのかなと思います。基本は基本ですごく大事なのですが、そろそろ実践に入っていかなければと思います。実際に2月には中間のまとめがあり、それぞれの分科会を通じてどういうふうに取り組んできたかというこの発表会があります。早速そのような形にしていきたいというのが我々の意向です。

では、具体的にどのようにやっていけばいいのかということで、我々の方でいくつか考えてきたことがありますのでそれをヒントに皆さんで広げていただければと思います。それですべてコンセプトワークということで「歩きたくなるまち新宿」これは新宿区の一歩の基本となる3つです。「賑わい・交流のあるまち」、「文化芸術・創造のまち」、「安心安全・潤いのまち」です。こういう掛け声のようなものはよくわからない面があります。具体的に何をやるかということが皆さん関心あるところですし、図書館活動を通じて地域発信をしていきたいとか、それぞれの活動を通じて何かやりたいといったこととお集まりのことと思います。このような活動を新宿区の活動に繋げてまとめいくには二つの視点が必要だと思います。一つは、個人や団体でやってきたそれぞれの活動に根ざした体験、感じたことです。情報発信する中で一番大事なことです。ただ、それが強すぎて、新宿区という大きな枠にあてはめた場合、個別の域を脱していないということではいけないと思います。例えば、落合でゴミ問題がでていますが、四谷は関係ないではなくて、新宿区として、落合のゴミ問題はどのように新宿区の問題なのかと

いう視点がまず必要になります。そういう考え方をしていかななくてはいけない。もう一つは、新宿区という大きなエリアの中の地域としての新宿区を捉えていかなければいけないと思います。例えば、落合から発信して、西新宿、四谷、早稲田というエリアまでどこまでひとつのテーマを持っていけるかということが大事な問題となります。それぞれの立場で持っている問題を新宿区というエリアで、これは東京都とか日本というレベルではなく、あくまで新宿区というレベルにどういうふうに持ち上げていくかという視点が大切です。個々の問題と新宿区のエリアの問題を行ったり来たりする中で、皆さんがある程度、納得できる、100%納得できる訳ではないですが、それぞれが「それは落合だけの問題じゃない、西新宿の問題でもあるな」という問題にどこまで上げられるかということです。あくまで視点は個別の問題もしくは地域の問題から入っていく形で、ただ地域の問題で終わらせてはいけない。もしくはひとつの活動の問題とするのではなくて、いかに区が今、皆さんと問題を共有できるかというふうに考えられるかということが次の作業におけるひとつの大きな観点になるかと思います。

新宿の文化、観光、産業という観点で3つ具体的に考えた例をあげて、皆さんにお話します。それをもとにそれぞれお持ちの問題を新宿区というレベルまでどうやってあげていくかというように考えていただきたい。だったらこういう考え方があるのではないか、だったらこうしたほうがよいのではないかということを広げていってもらった方が具体的なものになります。皆さんそれぞれ新宿区の情報であるとか、自分の持っている問題などを十分わかっていると思います。それを新宿区の中にどう広げていくかということが大事です。「歩きたくなるまち新宿」の実現に向けて、5つの取り組みですね。新宿区の取り組みに値しうるといふ部分にどうやってピックアップしていくかというところだと思います。文化、観光、産業の観点から私の考えた例をあげますので、参考にして、皆さんそれぞれの観点から考えて下さい。

まず観光ですが、先日、神楽坂で歴史民俗の集まりがありまして、神楽坂の具体的な歴史の話を伺いました。新宿区は大江戸線沿線に3つの観光コースがあります。落合、新宿、神楽坂ですが、それ以外の地域をどうやって結びつけていくか。例えば、目白は落合のとなりのまちですが、スタンプラリーを取り入れることで目白まで足を延ばしてもらえないか。具体的なアイデアを既存のもので構いませんが、スタンプラリーを行うことで3つのコースを新宿区ラリーと名付けましょうとかのアイデアが生まれます。ひとつのコースを巡った人は次のコースも巡ってみようと思い、普段、行かないところにも行ってみたいし。また、景品や賞品をつけたりしてもいいと思います。このようにどういうふうに取り組むかという視点で捉えることが必要だと思います。自分の地域は観光地ではないからいいですということではなく、むしろ観光を中心に考えることも必要です。

例えば、私は神楽坂を見ていろいろな切り口があり、何でも出来ると感じました。とはいえ単純にすぐ出来るものでもないし、神楽坂のようにする必要もありません。ただ学べるものはたくさんあります。なぜ活性化したのか、どうやって発展してきたのか、自分のところではどうするのか、他の地域とどうやって連携していけばよいのかを考えていくことにより、新宿区的具体性がでてくると思います。これはあくまで個人的な考え方ですが、やはり考え方にはふたつあると思います。大きなテーマから具体的なテーマへ移っていくいわゆる演繹法といったものと、もう一つは帰納法といわれる小さなものを積み上げていってそこに流れるものをテーマにしていくものです。現場のレベルのもの、素材をどうテーマとして貫いていくのかという考え方が大事ではないかと思えます。観光といっても、別にスタンプラリーがすべてではなく、例えば、新宿区の偉人を巡る旅でも構いません。大切なのは新宿区をエリアで捉えていく発想が必要です。どうしたら、隣の地域と繋がっていくのかという切り口が大切です。観光を考えるひとつの視点です。次に、図書館ということで、私の考えた図書館ということでお話をさせていただきたいのですが、地域の図書館という考え方なのですが、新宿区という切り口の中で、そこにしかない図書館であればどんなに小さな図書館でも日本一世界の図書館になるのではないかと考えます。個性のあるもの、新宿区でしかないもの、例えば、早稲田のほうであれば夏目坂で夏目漱石図書館です。そこにしかなければ、ある程度、専門的な部分の必然性も出てくるでしょうし、むしろ新宿区がバックアップしなければだめじゃないかといった流れにもなってくると思います。四谷であれば医学部系が多いということでシュヴァイツァーとか考えられます。単純に地域に図書館がないからと考えるのではなく、特色のある、区民みんなで共有できるような考え方にしていけばよいと思います。少なくとも都民や日本全国ということではなく、新宿区に住む方々が共有できるという形で、図書館を利用していろいろな形で行き来する。そうすることで、図書館のない地域をなくそうということに繋がることとなります。ひとつの個別の問題をいかに普遍的に新宿区というレベルで、あるいは、私たちの担っている年代、これからの年代、今後10年ぐらいをどういうふうに担ったら、繋っていくかという発想で考えていく必要があります。どうすれば繋がっていくか、どうすればみんなと問題を共有できるかということが大切だと思えます。

次に、産業ということですが、e-shopはかなり売り上げを上げています。ただし、儲かっているところと儲かっていないお店が明確に分かれています。私の印象として産業障壁はかなり低くなってきて、例えば、目白の商店街ごとインターネット上でヤフーのショップに出すとすれば、既存店舗を食いません。手間などの問題はありますが、そのあたりは消費者の活動されている方や若い人と一緒に行うことで解決できます。このように今あるものがどうすれば広がりを持って

るかを考えると面白い展開になると思います。少なくとも手間が余りかからず、皆さんがやっていて面白い、もしくはこういう発想だったら自分がやってみたいというものが原点になると思います。新宿区は既に350万人の乗降客があり、これ以上、人を集める必要は無いと思います。むしろ、今ここにいる人たちが自分の培ってきたノウハウを提供することによって、まず自分たちが楽しいというような価値になるような発想を貫いていくことが一番だと本当に個人的な考え方ですが思います。その人の集まりの色が新宿区の色を出していると思います。新宿区の色が緑色だとか赤だとか決めるのは難しいことだと思います。皆さんのこれまで長年やってきた活動の中で出てきたもの、思いみたいなものがひとつの活動に繋がっていけばいいと思います。そういうものの見方、考え方で、もう一度、これまでいろいろな素材、切り口で勉強してきたと思います。テーマとして「歩きたくなるまち新宿」の2ページですが、(1)3つのコンセプトと(3)5つの取り組みを、本来は(2)4つの仕組みを通して、繋げていく話ですが、私は(2)を割愛しても、後から考え方がついていくと思いますので、(1)と(3)をどう繋いでいくかというものの見方をすると少し分かりやすくなる。もしくは皆さんの活動を新宿区というレベルにボトムアップしていけるのではないかと思います。私の事例が皆さんの参考になったかは不安なのですが、「歩きたくなるまち新宿」は本当に素晴らしいものであると思います。ただ、私が見た限りでは、残念ながら、人のぬくもりや活動、喜怒哀楽といったものが書いてありません。そこに、皆さんが今までやってきた活動などのそういった部分が入るとより際立ってよいものになると思います。まずは身近な体験、思い、活動をいかにまぶしていくかです。その時、大事なものは新宿区というレベルで共有できるものにしていて、その中でテーマというものが見えてきます。まずは皆さんの個別の思いを入れていく中で、具体的にはこうしたらよいという提案に他の方の意見を聞きながら、他の地域も関係があるというレベルになりうるかどうかということを経験を踏まえて、バランスをとりながら、テーマ出し、具体的な活動を出せるといいと思います。その中でグループワークをしていただきたいと思います。素材はもう十分に出ていると思いますので、あとは考え方です。どうすれば繋がるかです。最後の最後でどう繋ぐかです。それによって結果が大きく変わります。そういう観点で皆さんのそれぞれ活動をもう一度洗いなおして、話し合いを進めていただくと、より具体的なものが出てくると思います。

- ： ありがとうございます。次にグループワークに入りますが、発表・意見交換、まとめのところで、本日もどなたかに司会をお願いしたいと思います。できれば今までやられていない方でお願いします。いないようですので、こちらから指名させていただきます。(指名→了承を得る)では、後程、お願いします。これからグループワークに入らせていただきます。なお、各班に配付してあります

ワークシートは最後に提出して下さい。

3 グループワーク

「歩きたくなるまち新宿」を素材にして、4班に分かれて、グループワーク

4 発表・意見交換

○： そろそろ時間になりましたので、発表・意見交換に入りたいと思います。司会の方よろしくをお願いします。

司会：本日、司会を努めさせていただきます。それぞれの班のグループワークの内容を1班から順番に発表をお願いします。

●：(1班)

3人と学生補助員1人を入れて、1時間近く話しました。結論から言うと、観光では「歩きたくなるまち新宿」の中に史跡・旧跡の発掘についてということがあります。例えば、新宿の中で、落語発祥の地としての神楽坂がありますが、四谷から新宿まで、落語をテーマに足を使って歩くと興味がでてきます。また、江戸の切り絵地図に沿って歩いたり、焼け野原になった後の復興の歴史つまり戦後史をたどって歩いたり、テーマを重層的に組み合わせると、地域からの発信、また新宿区全体からの発信になるのではないのでしょうか。新宿区は全国区であり、新宿西口の高層ビルも、六本木ヒルズに負けないでほしい。それとともに、やはりテーマごとに、専門家または専門家でないにせよガイドを養成する必要があるでしょう。神楽坂では、若い人がベテランについて学ぶなど、ガイドの養成の話もあります。イベントをどうやって広めるかということですが、口コミや地域情報誌を使うことが考えられます。新宿全体のまちの情報誌が少なくなっています。カルチャー関係の情報誌は、最近は少なくなっているようです。新宿を起点としている大江戸線の沿線に関する地域情報誌を作って、フリーペーパーのように駅に置くなど、新宿区が中心になって文化的なものを作っていくこともいいのではという話ができました。

司会：ありがとうございました。今、神楽坂周辺の話ができましたが、落語の題材にされた場所もあるのですか。

●： 私はこの前、四ツ谷の駅前から新宿の末広亭まで歩きました。古い落語家がどこに住んでいたとか、寄席の跡地、圓朝の碑などをたどりながら、最後は末広亭まで行きました。吉田章一さんという落語研究家が案内してくれました。落語という切り口で見ると、また新宿の新しい見方もできると思います。

司会：ありがとうございました。では、2班の方、お願いします。

●：(2班)

5名で話し合いました。「歩きたくなるまち新宿」はよくまとめられていますが、何が足りないかという視点で話しました。新宿をひとつのまちとして考えないで、地域ごとの実態に即したまちのありようをそのまま発信していけばいいと思います。連携でなく、輪をつなぐ連繫、密着して、大きな輪を作っていくべきではないでしょうか。また、商店を活性化するためには、まちの多様化、特色づくり、新しいもの古いものをどのようにジョイントしていくか。マップ作りも、ただお店の羅列だけでなく、特色を出して、訪ねてみたいなと思わせるものでなければいけない。四谷では、商工会が四谷おさんぽマップを作って配っています。また、その周辺を回るバスの試運転をして、たいへん好評だったらしいです。坂の多いまちなどは、マップがあったほうがよいし、バスがあればよりお客さんが集まるのではないかと。それから地域密着型バスが、議会でも検討されているようです。マップづくりやまちおこしなどはいろいろな角度から掘り起こしていけばよいと思います。例えば、新宿区には、多くの文学者が住んでいます。文学者や画家の探訪コースを作って皆さんに来てもらうプランを立てたらいいのではないかと。新宿にあるミニ博物館をもっと充実させて、もっと広めていけば来る人が増えるのではないかと。また、新宿には手描友禅や建具などの職人も多いため、職人探訪コースなども面白いのではないかと。地域の人が喜び足繁く通える図書館が見直されています。大きな目で見れば、子どもや高齢者も楽しめる場所です。新宿区にも、もう一度図書館について考えてもらいたいです。また、早稲田大学の図書館も、もっと区民に広げていけるような提案があればと思います。

司会：どうもありがとうございました。多彩な発表でしたね。早稲田大学には、勉強の機会などいろいろ提供していただいています。3班の方どうぞ。

●：(3班)

3人で議論しました。前提として、「歩きたくなるまち新宿」があるのですが、新宿区民または区外の人から新宿に来て歩きたくなるという意味ですが、もう一歩進んで、住みたくなるまち新宿にしてもいいのではないかと話がありました。そのためにも、地域の画一化ではなく、地域ごとの特色をそのまま残して、活かしていくことが重要です。また、情報発信のやり方にももう少し工夫や課題があるのではないかと。この区民会議についても、どのように外に発信させていくかが重要です。新宿区は昼間人口が夜間人口の3倍近くあり、区外から来る人が多いので、そういう人にも新宿区のよいところをどうやって伝えるかの工夫も必要です。新宿区という自治体で出来る範囲と、新宿区と東京都あるいは国と連携、調整してやらなければならない事業の範囲があると思います。そのあたりも明確にできれば、一般区民の意見も出やすいのではないかと。また、安心・安全なまちを目指すなら、タバコのポイ捨てや自転車放置をやめさせるように、きちんと最後までやり遂げる姿勢と実行が必要ではないかと。今後の区の発展を目指すなら、道路を

はじめとした地域の再開発をもっと計画的、重点をおいてやった方がいいと思います。また、新宿区の人口が増えることはいいことですが、例えば、ワンルームマンションなどに住む単身者人口が増えるだけでいいのか、若い世代を増やすような人口構成がいいのか、何を目標として考えているのかもひとつの課題です。以前、話に出ましたが、新宿区を含めた23区と東京都の税の関係があります。人に聞いた話によると、都からの交付金が江戸川区は新宿区と比べると、一人あたりの貰える額が倍ほど違うらしいです。税の公平性も考えないといけない。結論として、人が集まる仕組み、人が住みたいまちづくりが必要です。そのためには、新宿区の各地域で目玉となる、特色のあるまちづくりをしていく必要がある。そうすれば、他の地域で自分の地域にないような魅力をそこで見つければ、お互いに活性化するなり、勉強するチャンスがでてくるのではないかと考えます。

司会：どうもありがとうございました。では、4班の方どうぞ。

●：(4班)

3人と学生補助員1人を加えて話しをしました。「歩きたくなるまち新宿」はあくまでも骨組みであって、中身はどうかという共通認識を持つこと、また、現在ある活動を再認識して話し合いました。産業については、物流関係が格差の原因となっているのではという話ができました。例えば、デパートと商店会ではいろいろな違いがあります。また、商工会議所でやっている「新宿区こだわり大賞」などを再認識する必要もあります。こうしたもののPRがうまく出来ていないのではと思うことがあります。商店会には、商店会の魅力が十分に伝わってない、特色のある商店会にしていこうと議論が進んでいきました。例えば、渋谷は若者が行きたくなる街No.1である。新宿ならば、こういうまちだというイメージを具体的に話し合えればいいと思います。文化について、オペラシティの作り方に意見が出ました。周辺地域がさびしいというイメージがあります。例えば、サントリーホールなどは文化の雰囲気そのまま家に持ち帰れる感じがします。そうした雰囲気を持ったまちづくりができればいいなと思います。観光について、先程のスタンプラリーの話には肯定的な意見が多かった。スタンプラリーは商店などの活性化に繋げていけるのではないかと。1班からも話がありましたが、ガイドについて、ボランティアガイドをはじめさまざまなガイドの養成が必要ではないか。例えば、地元の人、高齢者、外国人などの人的な力を借りて、なるべくお金のかからない形で、ボランティアみたいな形でできればいい。それを区がバックアップしていければいいという意見が出ました。あとさまざまなもの考え方の改善策を話し合いました。一番の改善策は今あるもののPRの仕方がうまくいっていないのではないかと。区のPRの仕方としては、区のホームページや広報誌、あるいはメールマガジンを発行してもいいし、区の施設や図書館を使っていったらいいのではないかと。特に、図書館の位置づけが議論の対象になりました。子供

からお年寄りまでみんなが集える場所として、利用価値を再認識することが必要です。図書館活動やインターネットなどを通じてPRしていけばいいのではないかという意見がありました。私たちは区民会議で勉強したこと、理解できたことも多かったので、区民もさまざまな情報に接することでいろんな意識も高まってくるのではないかと。従って、区の施設や図書館の利用価値を再認識しながら、PRしていければいいと思います。

- : 「こだわり大賞」について補足しますが、今年で3年目、商店街連合会などから本当のこだわりを持っているお店を選出してもらい、審議委員がすべての店を見て回り、5段階で評価します。中小企業診断士が経営面も見ます。地域の商店街の活性化のために始めたものです。区民会議の中の文化とか観光とかと一体化して、表彰された人のマップを作ることやインターネットを使って、皆さんに知らせる機会があれば、区民にも有益であり、商店街の活性化にも繋がるのではないかと。しかし、今はどこにも発信するところが無いことがネックです。

司会 : ありがとうございます。地域の特徴を持ったまちづくりをすれば、おのずから人々は魅力のあるまちを歩くだらう。また、歩いてみたくなるだらう。他の地域からも人が来るでしょう。それぞれの地域の特徴づくりの中でどういう人と連携するかが問題ではないかと。先程、2班の話にもありましたが、私たちにとって「れんけい」というと「連繫」（輪がつながる）の字が念頭にあったのですが、最近は連携（携帯電話の携）の字を使っています。皆さんそれぞれ持っている個性のあるもの、違ったものを集めて、つくりあげていくことが地域づくりだと思います。新宿はひとつではなくて、いろいろな地域の特徴があります。その地域のいろいろな人、商店街の人、文化人、職人などの違ったものを持ち寄れば地域のまちづくりの特徴が出てくるのではないかと。それは小さなまちのつくり方という話が皆さんの話の中からでていたと思います。また、新宿は大きな都市の特徴を持っていますが、大きなまちづくりという時には、区の努力だけでなく都や国という大きな枠組みの中で考えられていくことだと思えます。ここでは、皆さんからまちづくりの希望や夢を出して欲しいです。同時に、特徴のある地域を作っていく。それが新宿の魅力になるのではないかと。歩きたくなるまち新宿になるのではないかと。皆さんの考えも大体そういう方向に向かっているのではと感じました。

- ◎ : 私からも少し付け加えさせていただきます。皆さんの意識が個別の地域づくりをしっかりやっということと、それを全体にどう繋げていくかということだと感じます。個別のものをネットワークなどで共通化していくことです。それぞれものを緩やかにどう繋げていくかです。あとは2月19日の中間まとめに向かって、肅々かつ具体的にどう繋げていくかです。産業を軸にしたり、文化を軸にしたり、観光を軸にしたりしてまとめる作業がそろそろ必要だと思います。山を登るときには、北方ルートから行くのか、南方ルートから行くのか、西方ルー

トから行くのかそれぞれの立場、地域のあり方、考え方によるところから、新宿区という部分での普遍化にどう繋げていくかが重要です。先程の4班の発表は、それぞれの知恵を集めていたものでした。さらに、今後、具体的に何をするのか、どうやっていくのか、やるのかやらないのかなども精査していけるといいかと思えます。これから具体的な作業がどんどん始まっていくと思えます。

5 まとめ

司会：一般的な話から、こういう場所にこういう施設がほしいなど、具体的にまとめていってもいいのではないかと思います。どうでしょうか。

◎： 私も個人的にはそこから入ってもいいと思います。ただし、出口の問題だと思います。例えば、図書館を作りたいという時になぜ作りたいのか、それを新宿区とどう繋がっていくのか、区民というレベルまで繋がらないといけない。普遍性の問題というところで考えないといけない。そのために、早稲田地域だけじゃなく、夏目漱石をテーマにしたらいいのではないか。名称が図書館というただ本が集まっているところだけとわかってしまう場合があります。皆さんと話をしている中では、活動の場としての図書館ということだったと思います。例えば、図書館という言い方をやめて、ミニパークという表現にすればいいのではないかという議論のやり方もあります。発想を変えて、行うことで普遍的なものになりやすいと思います。そうすることで、新宿区というひとつのレベルに達していくのではないか。具体的にこういう施設が欲しいという視点と新宿区としてのマクロ的な視点というふたつの視点があります。そのふたつの視点の中で、自分だったらこう考える、皆さんだったらこう考えると意見を言いながら、それらの中間地点みたいなところに落としていくと、産業、文化、観光がそれぞれにまとまっていきやすくなると思います。

司会： 中間まとめに向けて、一般的な要望、希望、夢からもう少し具体的なことを進めていく話になれば、成果に繋がっていくのではないかと思います。皆さんよろしくご検討お願いします。

6 事務連絡

○： 司会の方どうもありがとうございました。最後に、皆さんに本日、各班でまとめていただいたワークシートの提出をお願いします。

* 次回の日程について

・ 12月5日（月）19時～21時 新宿区役所第一分庁舎7階研修室

以上